

食品ロス削減啓発絵本の活用に係る調査報告書

令和5年9月

消費者庁新未来創造戦略本部

内容

第1章	はじめに	3
第2章	令和3年度絵本「ぜんぶたべたよ！」の活用に係る調査	4
2-1.	絵本の作成.....	4
(1)	絵本の作成方針	4
(2)	絵本の概要	4
2-2.	アンケート調査の実施	5
(1)	実施概要.....	5
(2)	調査結果.....	6
2-3.	まとめ	9
第3章	令和4年度絵本「かいじゅうステップSDGs大作戦 たべものかいじゅうあらわる!？」の活用に係る調査	10
3-1.	絵本の作成	10
(1)	絵本の作成方針	10
(2)	絵本の概要	10
3-2.	アンケート調査の実施.....	11
(1)	実施概要.....	11
(2)	調査結果.....	12
3-3.	まとめ	17
第4章	終わりに	17
別添資料①	令和3年度絵本資料.....	18
1-1.	アンケート調査結果	18
1-2.	調査票	22
別添資料②	令和4年度絵本資料.....	26
2-1.	アンケート調査結果	26
2-2.	調査票	32

第1章 はじめに

世界各国では、将来の食料資源の確保・有効利用・廃棄量削減・需給バランス・フードサプライチェーン・インフラ整備の必要性・温室効果ガス排出量削減等の重要な課題を抱えている。中でも、世界全体の食料廃棄量は年間約13億トンとなり、これは人の消費のために生産された食料の約3分の1に当たる¹。

食品廃棄物のうち、まだ食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」という。平成27年9月に国際連合で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で定められている「持続可能な開発目標」(SDGs)のターゲットの一つとして、2030年までに小売・消費レベルにおける世界全体の1人当たりの食品ロスを半減させることが盛り込まれるなど、国際的に食品ロス削減の機運が高まっている。

我が国は食料自給率が低く(カロリーベースで38%²)食料を海外からの輸入に大きく依存している一方で、食品ロス量は年間523万トン³(このうち約半分が家庭からの廃棄)であり、これは国民1人当たりに換算すると年間約42kgとなる。

また、我が国における食品ロスを含む一般廃棄物の処理に要する経費は年間約2.1兆円⁴に上るほか、食料費の家計負担が大きく、全世帯の平均でみると消費支出の4分の1以上(約6万円/月)⁵を負担している。また、子どもの貧困は9人に1人⁶と高水準となっており、将来の食糧問題、環境問題、経済的側面等からも多くの課題を抱えている。

そこで、食品ロス削減の取組を「国民運動」として推進するため、令和元年10月に「食品ロスの削減の推進に関する法律」(食品ロス削減推進法)(令和元年法律第19号)が施行され、令和2年3月に「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」が閣議決定された。

この他、令和元年7月に公表した「食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律」(食品リサイクル法)(平成12年法律第116号)の基本方針において、食品関連事業者から発生する事業系食品ロスを、2000年度比で2030年度までに半減させるという目標が設定されている。また、一般家庭から発生する家庭系食品ロスについても、平成30年6月に閣議決定された「第四次循環型社会形成推進基本計画」において同様の目標が設定されるなど、事業者、消費者、行政等が連携した取組を推進している。

消費者庁においては、消費者に向けた様々な啓発活動を行っているが、これまでは成人を主な対象としていたものが多かった。そこで新未来創造戦略本部では、子どもを主な対象とした啓発を行うことで、幼いうちから食品ロス削減についての意識が芽生え、家庭において食品ロス削減につながる行動が更に促進されることを目指し、令和3年度及び令和4年度において、5～6歳の子どもたちを対象として、食品ロス削減に関する啓発用の絵本(以下「絵本」という。)を作成し、その活用に係る調査を実施することとした。

¹ 国連食糧農業機関 (FAO)「世界の食料ロスと食料廃棄」(2011年10月)

² 農林水産省「食料需給表(令和4年度)」(2023年8月)

³ 農林水産省・環境省「食品ロス量(令和3年度推計値)」(2023年6月)

⁴ 環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(令和3年度)について」(2023年3月)

⁵ 総務省「家計調査報告(家計収支編)2022年(令和4年)平均結果の概要」(2023年3月)

⁶ 厚生労働省「2022(令和4)年 国民生活基礎調査」(2023年7月)

第2章 令和3年度絵本「ぜんぶたべたよ！」の活用に係る調査

2-1. 絵本の作成

(1) 絵本の作成方針

令和3年度絵本「ぜんぶたべたよ！」(以下「令和3年度絵本」という。)を作成するにあたって、以下のような目的を持って、物語の内容の検討を進めた。

- 目的① 好き嫌いなく食べ物を大切にする心や、生産者や食事を作る人等のことを思いやる気持ちを育む。
- 目的② 読み聞かせを通じて、家庭で食べ物を大切にするためのコミュニケーションを促進する。
- 目的③ 読み聞かせを通じて、子どもと保護者それぞれに対して、食品ロス削減を実現するための行動変容を促す。

(2) 絵本の概要

作成した絵本の概要は、以下のとおりである。

【タイトル】

ぜんぶたべたよ！

【あらすじ】

体調のすぐれないお母さんを心配し、おやつプリンを残してしまうゆうきくんは、仕事から帰ってきたお父さんと一緒に夕飯のシチュー作りに挑戦する。ゆうきくんは料理を通じて、食材の生産者や、日ごろ料理をしてくれる人の愛情・ありがたさを実感する。



▲令和3年度絵本表紙

2-2. アンケート調査の実施

(1) 実施概要

アンケート調査は、以下のとおり行った（表1）。

表1 アンケート調査概要

調査エリア	徳島県内
調査対象者	幼稚園に通園する子ども（5～6歳）の保護者及び幼稚園教諭
絵本配付箇所	幼稚園 38 園（私立 11 園、国公立 27 園）
絵本の配布数	333 冊（保護者用 280 冊、幼稚園用 53 冊）
読み聞かせ実施期間	令和4年6月
読み聞かせ実施場所	各家庭及び各幼稚園にて実施
調査方法	家庭や幼稚園での読み聞かせの実施期間後に、アンケート調査を実施
アンケート配布方法	・当庁から各園へ、令和3年度絵本やアンケート調査票（保護者向け及び幼稚園向け）を宅配便等で配布 ・保護者向けアンケート調査票は、各園から保護者に対し令和3年度絵本配布時に同封
アンケート配布時期	令和4年5月下旬
アンケート回答期限	令和4年7月13日
アンケート配布数	332 部（保護者 280 部、幼稚園 52 部）
回答者数	215 名（保護者 167 名、幼稚園 48 名）
回収率	64.8%（保護者 59.6%、幼稚園 92.3%）

(2) 調査結果

本報告書においては、「無回答」「不正回答」は無効なものとして扱い、集計していない。また、グラフ中に記載の%を示す数字は、小数第2位を四捨五入して表記しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

ア. 絵本の難易度

子どもにとっての令和3年度絵本の難易度については、保護者のうち42.6%が「簡単だった」「やや簡単だった」と回答した一方で、12.0%が「やや難しかった」「難しかった」と回答した。また、幼稚園教諭は32.6%が「やや難しかった」「難しかった」と回答した(図1)。

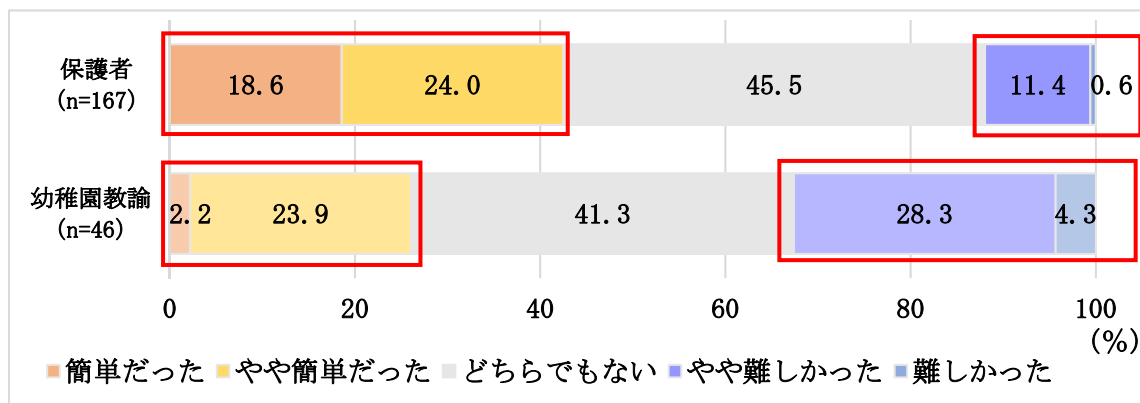


図1 令和3年度絵本の難易度

イ. 自発的な読み返しの有無

保護者向けアンケートの結果、読み聞かせ後に自ら令和3年度絵本を読み返した子どもは44.3%、読み返さなかった子どもは55.7%であった(図2)。

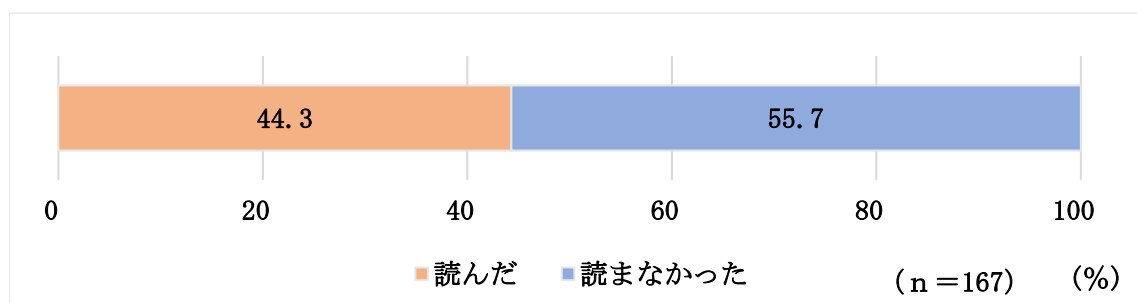


図2 読み聞かせ後に自ら令和3年度絵本を読み返した子どもの割合(保護者回答)

ウ. 読み聞かせ後における子どもの行動変化

令和3年度絵本の読み聞かせ後における子どもの行動変化について、保護者と幼稚園教諭にそれぞれ質問した。その結果、保護者のうち54.5%、及び幼稚園教諭のうち62.5%が、子どもに行動変化があった旨回答した（図3）。

また、保護者の回答を基に集計すると、令和3年度絵本の読み聞かせ後に、自ら読み返した子どもの60.3%に行動変化が見られた（図4）。また、自ら読み返さなかった子どもにおいても、50.0%に行動変化が見られた。

ここでの行動変化とは、「調理の手伝いをするようになった」「食べ物大切さについて話すようになった」等、食品ロス削減への意識をはじめ、食べ物を大切にする心や、生産者・調理する人を思いやる心が養われたと思われる行動の変化のことをいい、その内訳は図5のとおりである。

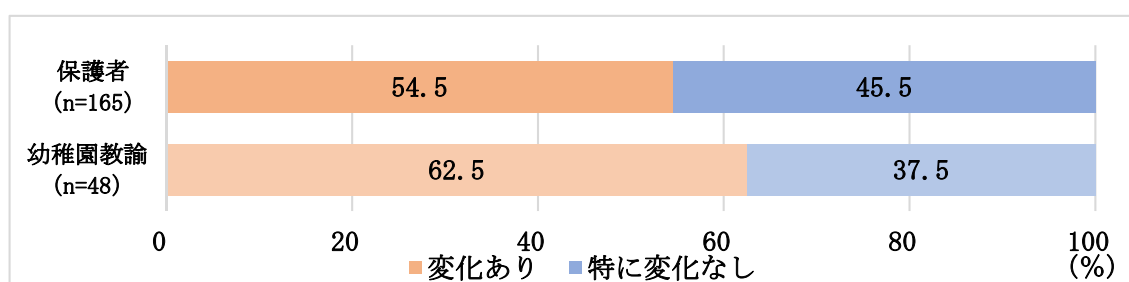


図3 読み聞かせ後に行動が変化した子どもの割合

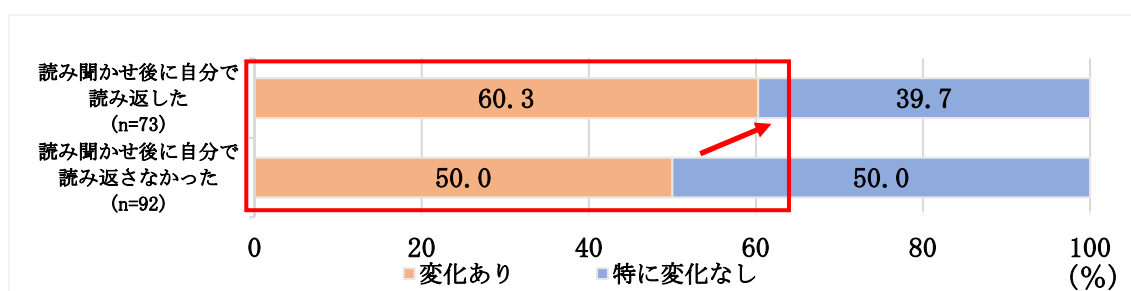


図4 読み聞かせ後に行動が変化した子どもの割合（保護者回答）

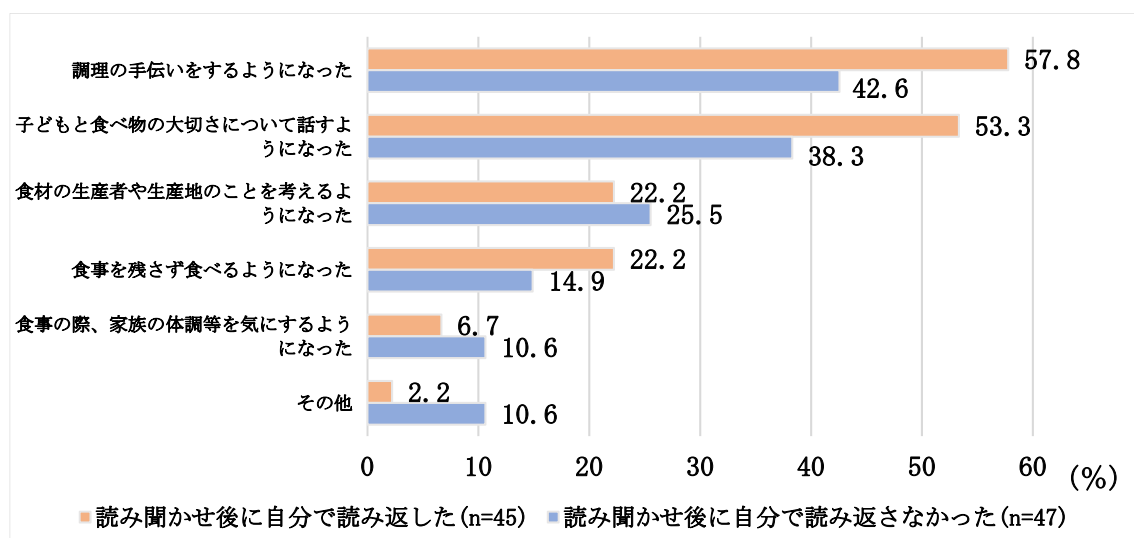


図5 読み聞かせ後における子どもの行動変化の内訳（複数選択可）（保護者回答）

エ. 読み聞かせ後における保護者の行動変化

保護者のうち 71.7%において、読み聞かせ後に食品ロス削減に向けた行動変化が見られた（図6）。行動変化の内訳は、図7のとおりである。

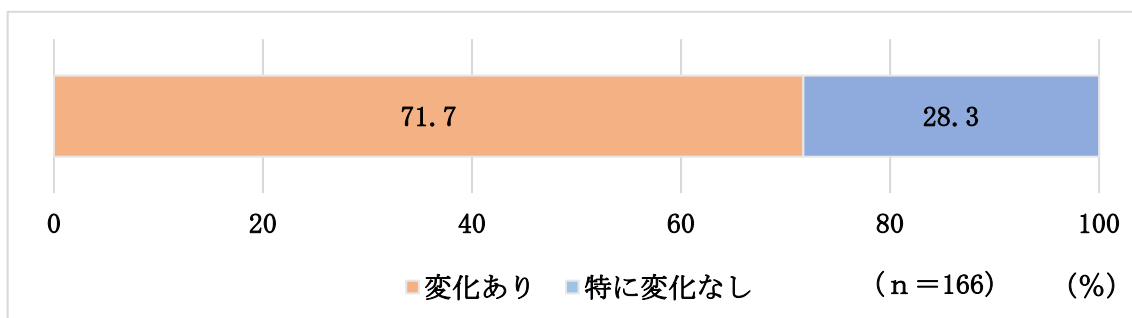


図6 読み聞かせ後に行動変化した保護者の割合

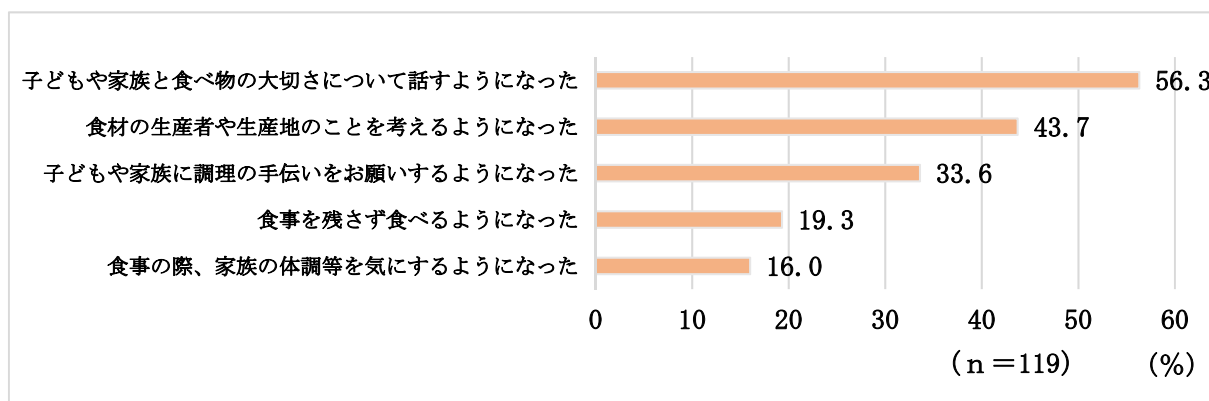


図7 読み聞かせ後における保護者の行動変化の内訳（複数選択可）

2-3. まとめ

半数以上の保護者が、令和3年度絵本の読み聞かせ後に「調理の手伝いをするようになった」「食べ物の大切さについて話すようになった」等、子どもに食品ロス削減につながる行動変化がみられたと回答した。また、多くの子どもを一度に観察する幼稚園教諭からも同様に、子どもの行動が変化したと回答があった。

また、保護者についても、読み聞かせ後には「子どもや家族と食べ物の大切さについて話すようになった」「食材の生産者や生産地のことを考えるようになった」等、食品ロス削減につながる行動変化が確認できた。

以上のことから、令和3年度絵本を用いた読み聞かせを行うことは、子どものみならず保護者に対しても、食品ロス削減への啓発として有効であることが示唆された。

なお、保護者向けアンケートには令和3年度絵本の感想を尋ねる自由記述の設問を設けた。その回答としては、食品ロス削減に関する親子でのコミュニケーションや、食事を食べきる頻度等が増加したといった好意的な感想が多かったものの、文章の多さや内容のわかりづらさを指摘する感想も見受けられた。また、幼稚園教諭においては、令和3年度絵本が子どもにとって難しいと回答した割合が保護者以上に多かった。令和3年度絵本の作成方針及び趣旨として「食べ物を大切にする」ことや「生産者や食事を作る人のことを思いやる」こと等があったことから、食事やおやつを作ってくれる母親をいたり、父親と一緒に調理に挑戦する場面や、食べ物の生産・流通・消費といったサプライチェーンの流れ等の内容を表現した結果、伝える要素が多く、また物語も長くなったため、上記のような感想及び回答があったものと思われる。

加えて、読み聞かせ後に、自ら読み返した子どもよりも、読み返さなかった子どもが多かったことについても、伝える要素が多いことや物語が長いことが1つの要因で、子どもの興味・関心が多少薄れてしまった可能性があることも考えられる。

これらのことから、令和4年度では、5～6歳の子どもにより興味・関心を持ってもらうこと、また啓発の効果をより高くすることを目指し、新たな絵本を作成し、その活用に係る調査を実施することとした。なお、令和3年度絵本は、5～6歳の子どもを対象年齢として想定していたものの、伝える要素の多さなどから、対象年齢を引き上げて啓発に活用することも可能ではないかとも推察される。

第3章 令和4年度絵本「かいじゅうステップ SDGs 大作戦 たべものかいじゅうあらわる!？」の活用に係る調査

3-1. 絵本の作成

(1) 絵本の作成方針

令和4年度絵本「かいじゅうステップ SDGs 大作戦 たべものかいじゅうあらわる!？」(以下「令和4年度絵本」という。)は、令和3年度絵本について行ったアンケート調査から得た結果や感想をもとに、以下のような目的を持って、食品ロス削減の必要性について物語を通してより簡潔に表現することとした。

目的① 物語を通じて、子どもや保護者に食べ物の大切さを伝える。

目的② 既存のキャラクターを起用し、対象者の興味・関心を引くことで、食品ロス削減の必要性を伝える。

(2) 絵本の概要

作成した絵本の概要は、以下のとおりである。

【タイトル】

かいじゅうステップ SDGs 大作戦
たべものかいじゅうあらわる!？

【あらすじ】

みんなで好きな食べ物を持ち寄って、おまつりを楽しむかいじゅうたち。あとには、採りすぎた野菜やくだもの、作りすぎたお料理、食べ残しの山がありました。食べものを大切にしないと、こわーいかいじゅうがやってくるかも!？



©TPC ©KSW

▲令和4年度絵本表紙

3-2. アンケート調査の実施

(1) 実施概要

令和3年度は徳島県内でアンケート調査を実施したが、令和4年度は調査対象地域を拡大し、中国・四国地方にて実施した。また、令和3年度の調査を踏まえ、読み聞かせの前後の2回に分けてアンケート調査を行うことで、より調査当時の状態を把握できるようにした。調査の概要は表2のとおりである。

表2 アンケート調査概要

調査エリア	中国・四国地方
調査対象者	幼稚園に通園する子ども(5～6歳)の保護者及び幼稚園教諭
絵本配付箇所	国立大学附属幼稚園(10園)
絵本の配布数	332冊(保護者用332冊、幼稚園用10冊)
読み聞かせ実施期間	令和4年10月
読み聞かせ実施場所	各家庭及び各幼稚園にて実施
調査方法	読み聞かせ実施期間の前後にアンケート調査を2回実施
アンケート配布方法	当庁から各園へ、令和4年度絵本やアンケート調査票(保護者向け及び幼稚園向け)を宅配便等で配布 事前アンケート：各園から保護者へ配布 事後アンケート：各園から保護者へ令和4年度絵本配布時に同封
アンケート配布時期	事前アンケート：令和4年9月初旬 事後アンケート：令和4年9月下旬
アンケート回答期限	事前アンケート：令和4年9月30日 事後アンケート：令和4年11月7日
アンケート配布数	事前・事後とも339部(保護者322部、幼稚園17部)
アンケートの紐づけ	回答者の紐づけができるよう、事前・事後アンケート調査票の右上に識別番号を記入
回答者数	事前：319名(保護者303名、幼稚園16名) 事後：301名(保護者285名、幼稚園16名)
回収率	事前：94.1%(保護者94.1%、幼稚園94.1%) 事後：88.8%(保護者88.5%、幼稚園94.1%)

(2) 調査結果

本報告書においては、「無回答」「不正回答」は無効なものとして扱い、集計していない。また、グラフ中に記載の%を示す数字は、小数第2位を四捨五入して表記しているため、数値の合計が100%にならない場合がある。

ア. 自発的な読み返しの有無

保護者向け事後アンケートの結果、読み聞かせ後に自ら絵本を読み返した子どもは全体の78.9%であり、読み返さなかった子どもは全体の21.1%であった(図8)。

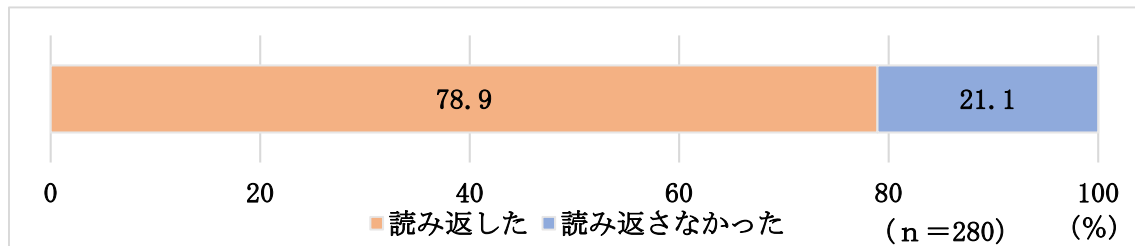


図8 読み聞かせ後に自ら絵本を読み返した子どもの割合 (保護者回答)

イ. 感想や質問の量

読み聞かせ後に感想を話したり質問したりする子どもの割合について、事前及び事後アンケートで幼稚園教諭に質問した。その結果、感想を話したり質問したりする子どもが「ほぼ全員」又は「半分より多い」と回答した教諭は、令和4年度絵本読み聞かせ後で33.4%と、事前アンケートで確認した普段の割合(18.8%)よりも多かった(図9)。また、子どもの感想や質問の量の変化を事後アンケートで保護者にも質問したところ、39.0%が「増えた」「どちらかといえば増えた」と回答した(図10)。

さらに読み聞かせ後の子どもからの感想や質問が普段と比べて「増えた」「どちらかといえば増えた」割合について、保護者からの回答に基づき自ら読み返した子どもと読み返さなかった子どもで分けて集計したところ、読み返した子どもでは45.9%、読み返さなかった子どもでは15.3%となった(図11)。

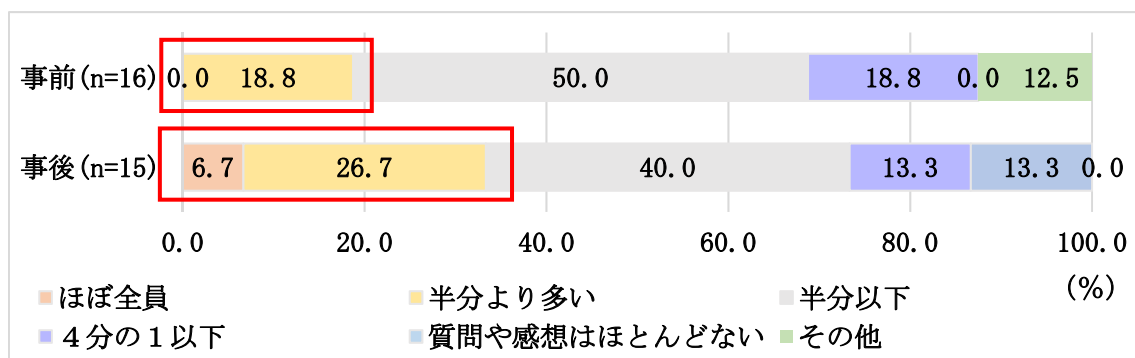


図9 絵本の感想を話したり質問したりする子どもの割合 (幼稚園教諭回答)

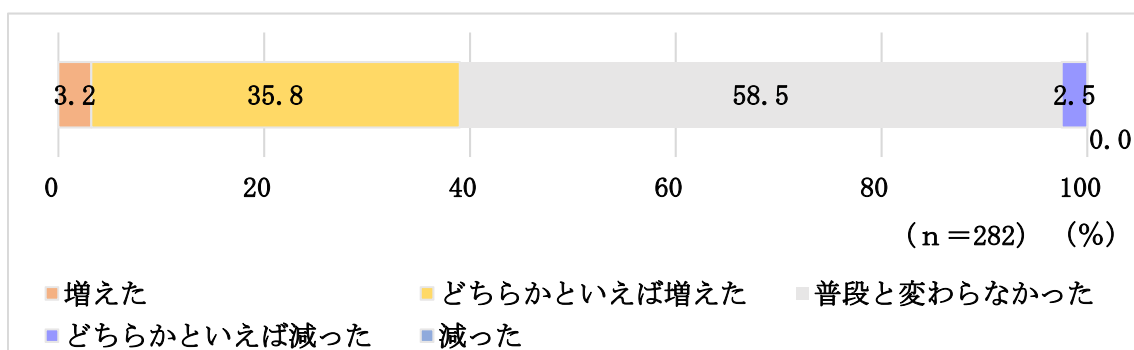


図 10 子どもにおける読み聞かせ後の絵本の感想や質問の量の変化（保護者回答）

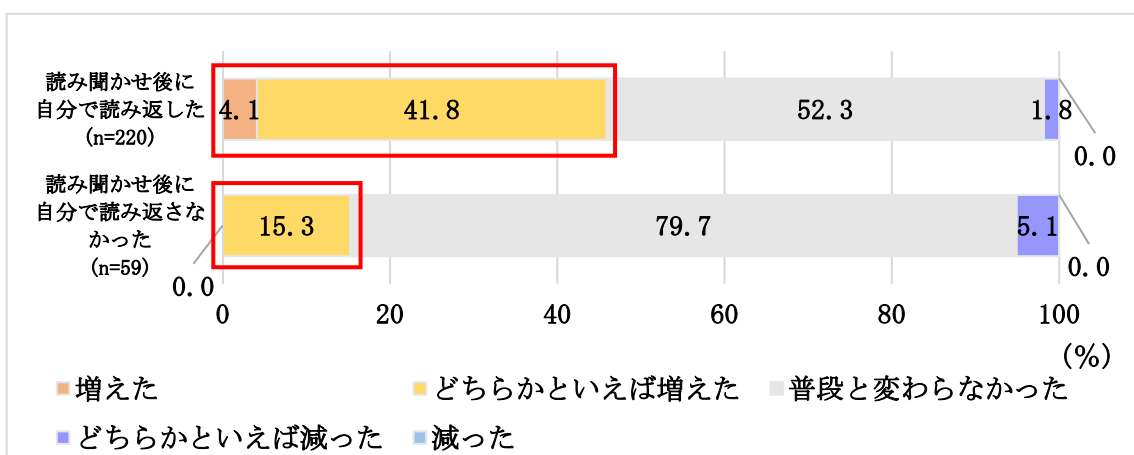


図 11 読み返しの有無における感想や質問量の比較（保護者回答）

ウ. コミュニケーション量

絵本の読み聞かせ後に「食べものを大切にする」ことや「残さず食べきる」ことについて子どもと話をする機会が増えたか保護者に質問した。その結果、子どもと話をする機会が「増えた」又は「どちらかといえば増えた」と回答した割合は、自ら読み返した子どもで81.4%、読み返さなかった子どもでも64.4%となった（図 12）。

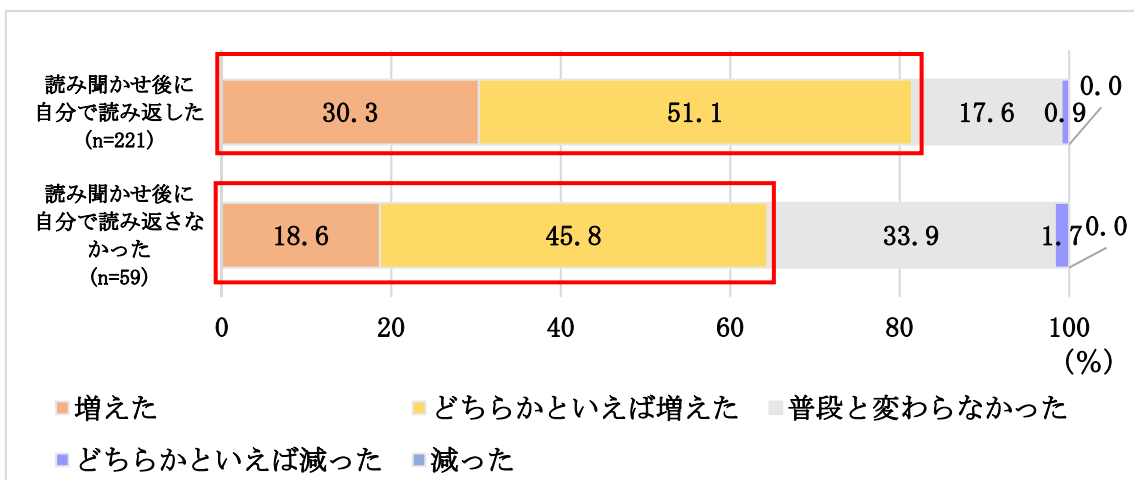


図 12 読み返しによるコミュニケーション量の比較（保護者回答）

エ. 子どもの1週間当たりにおける食事を食べきる頻度

保護者向け事後アンケートの結果に基づき、子どもの1週間当たりの食事を食べきる頻度を絵本の読み聞かせの前後で比較したところ、読み聞かせ後は、「あまり食べきれない」子どもが19.0%から10.9%に、「毎食食べ残す」子どもが2.1%から1.4%に減少した。一方で、「毎食食べきっている」子どもが26.1%から30.3%に、「だいたい食べきっている（食べ残しは週に数回）」子どもが52.8%から57.4%に増加した（図13）。

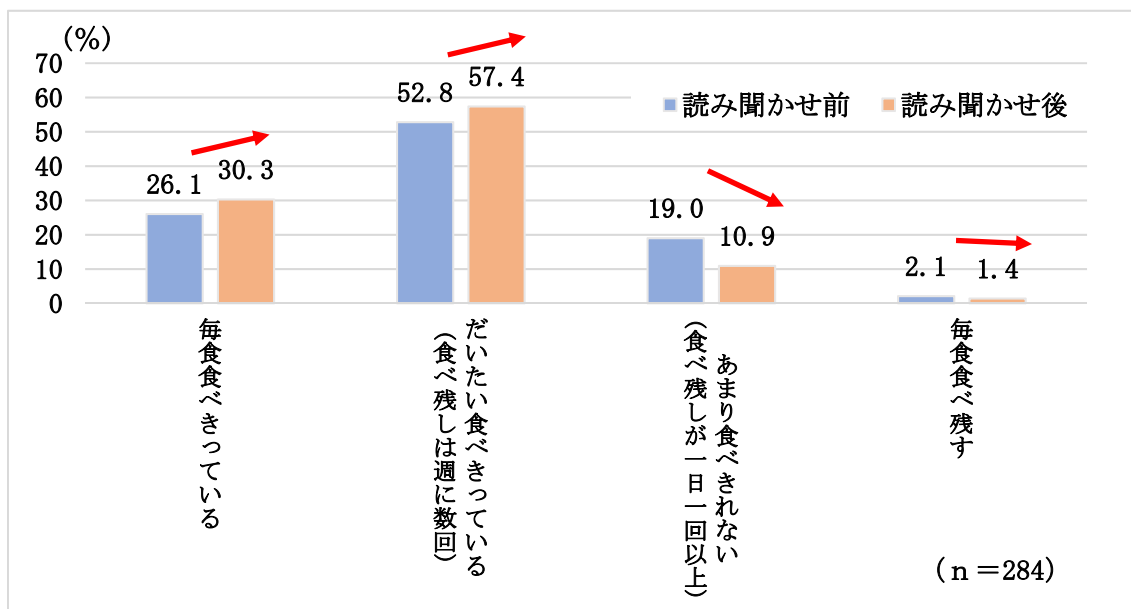


図13 子どもの1週間当たりにおける食事を食べきる頻度の比較（保護者回答）

オ. 子どもの1食当たりにおける食事を残す量

保護者向け事後アンケートの結果に基づき、子どもの1食当たりにおける食事を残す量について、読み聞かせ前後で比較したところ、「食べ残しはない」子どもが28.9%から34.3%に増加した。また、食事を残す量が「4分の1以下」の子どもが61.8%から60.7%に、「半分以下」の子どもが7.5%から3.9%に、「半分より多い」子どもが1.1%から0.4%にそれぞれ減少した（図15）。

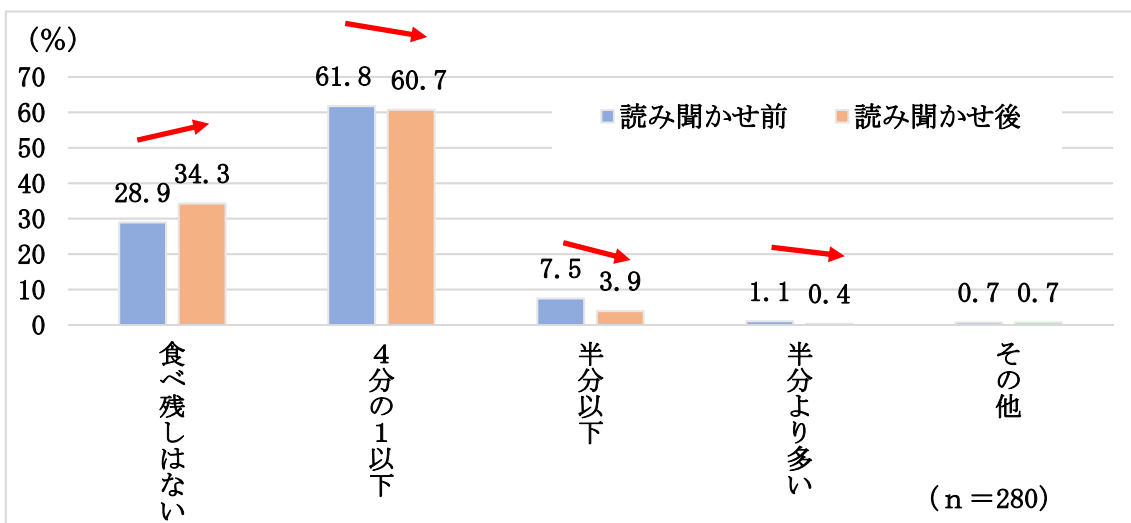


図14 子どもの1食当たりにおける食事を残す量（保護者回答）

カ. 保護者における食品ロスを出す頻度

保護者における食品ロスを出す頻度を読み聞かせの前と後とで比較してみると、読み聞かせを行った後は、「ときどき食品ロスを出す」家庭が37.4%から29.1%に、「ほぼ毎日食品ロスを出す」家庭が3.6%から1.8%に減少した。一方で、「食品ロスはほとんど出さない」家庭は16.5%から18.3%に、「あまり食品ロスを出さない」家庭は42.4%から50.7%に増加した（図16）。

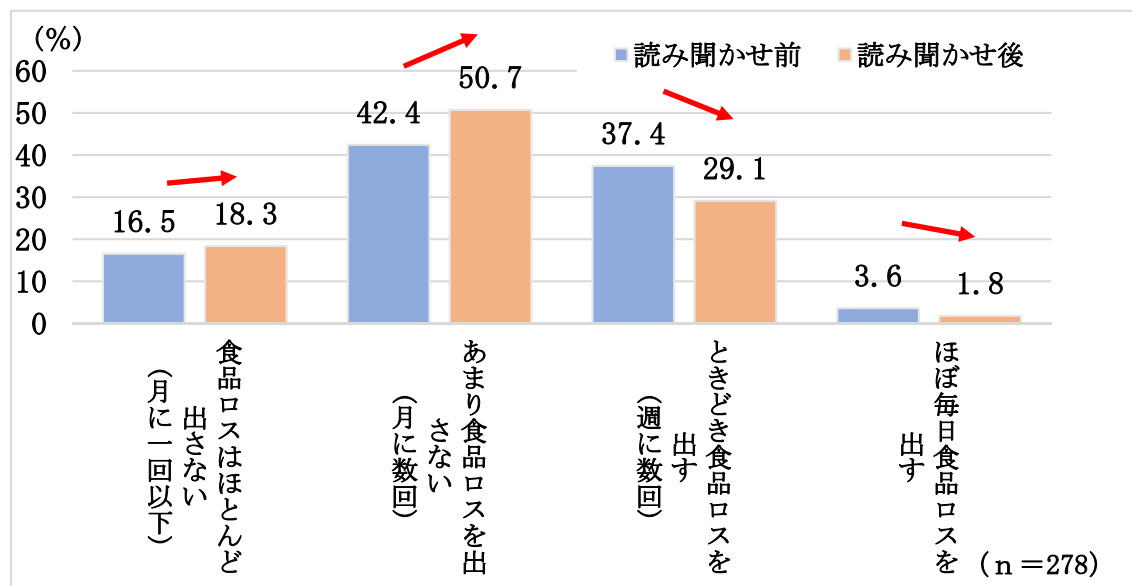


図15 保護者における食品ロスを出す頻度

キ. 食品ロス削減のために、家庭で現在実践していること

保護者が食品ロス削減のために、家庭で現在実践していることを読み聞かせの前後で比較したところ、多くの項目で実践している割合が増加した（図17）。なお、これらの増加した項目の中には、令和4年度絵本の巻末に記載した「食品ロスを減らす3つの約束」でもある「買い物前に今ある食材を確認」「（購入時）すぐに食べるものは手前から取る」「料理は食べる分だけつくる」も含まれている。

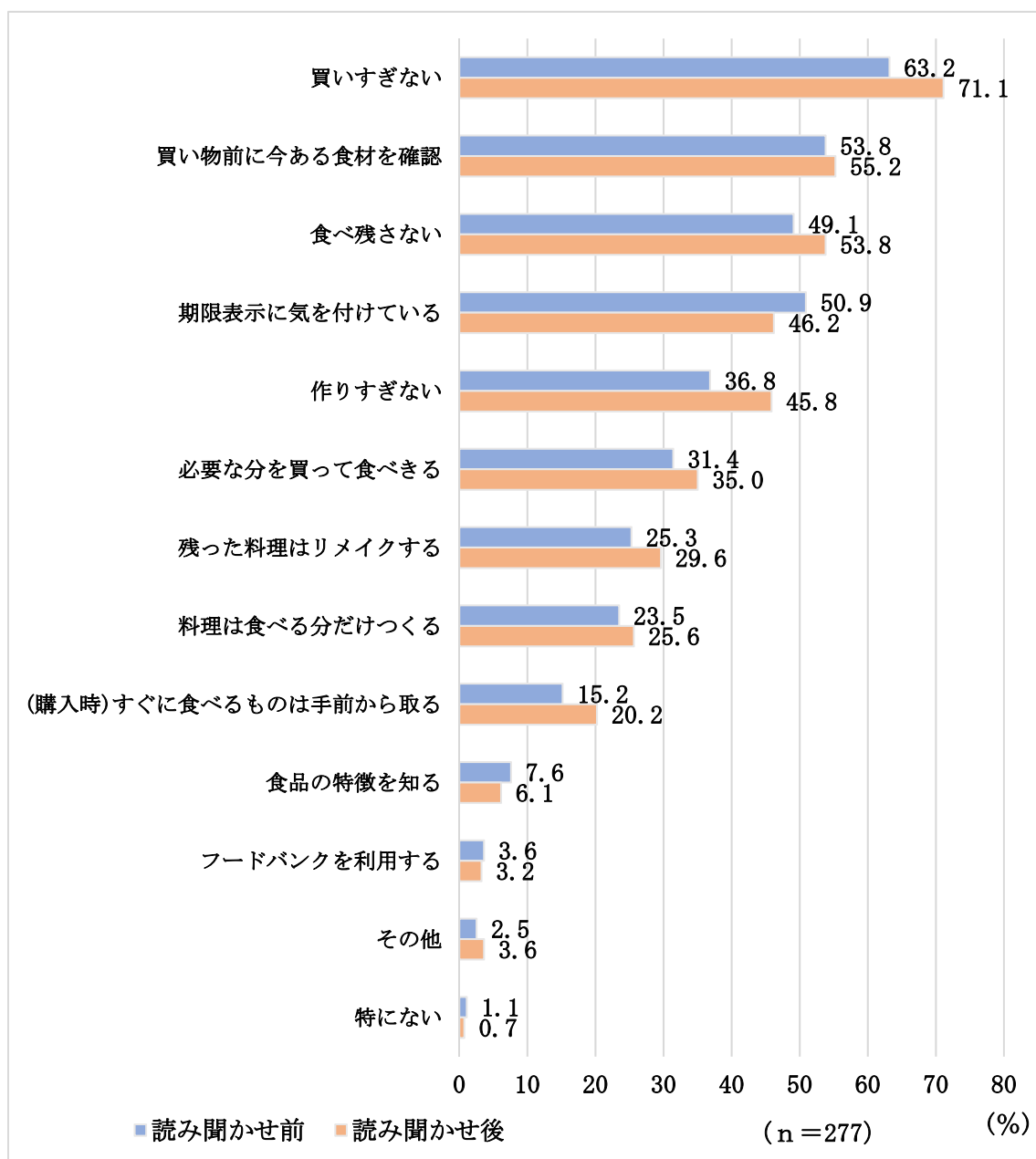


図 16 食品ロス削減のために、家庭で現在実践していること（複数選択可）（保護者回答）

3-3. まとめ

令和4年度絵本を読み聞かせた後、自ら読み返した子どもの割合の方が、読み返さなかった子どもの割合よりも多かった。また、令和4年度絵本の読み聞かせ後には、感想や質問の量は、読み聞かせ前よりも増えたことが保護者、幼稚園教諭双方の回答から確認できた。自ら読み返した子どもと読み返さなかった子どもとで、読み聞かせの前後における感想や質問及びコミュニケーション量を比較すると、読み返した子どもの方が、感想や質問の量及びコミュニケーションの量が増加する傾向があることが確認できた。

これらのことから、令和4年度絵本は、子どもにとって一定程度の興味・関心を引く内容であったことが示唆されたといえる。

その他に、食品ロス削減へ直接的につながる行動変化として、読み聞かせ前後における子どもの食事を食べ残す頻度や量を比較すると、読み聞かせ後はともに減少していた。また、読み聞かせ後の保護者においても、食品ロスを出す回数の減少や、食品ロスを削減するために実践している項目の増加が確認できた。

以上のことから、令和4年度絵本を活用した読み聞かせも、子どもと保護者の両方に対する食品ロス削減への啓発手法として有効である可能性が示唆された。

第4章 おわりに

本調査は、絵本の読み聞かせを行うことで、幼い頃から食品ロス削減についての意識が芽生え、家庭における食品ロス削減が更に促進されること、ひいては将来的な食品ロスの発生を抑制することを目指し、2年度にわたり実施した。

結果として、令和3年度及び令和4年度のいずれの調査においても、読み聞かせやその後のコミュニケーションを通じて、食べ物を大切にすることや、食事を食べきる・食品ロスを出さないといった意識が子どもと保護者の両方で高まったことが確認でき、食品ロス削減のための啓発効果があるものと示唆されたといえる。また、家庭でも幼稚園内でも子どもの食品ロスへの意識及び行動の変化が確認できたことから、読み聞かせを通じて子どもが場所によらず食品ロスへの意識を持って行動するようになったと考えられる。

本調査において用いた2種類の食品ロス削減啓発絵本は、現在消費者庁ウェブサイトにて公表⁷しており、誰でも閲覧をすることが可能であるほか、消費者庁や一部の図書館において貸出⁸も行っている。子どもたちの年齢や興味に合わせて、それぞれの絵本が家庭や幼稚園等において読み聞かせ等に活用されることで、子どもたちや保護者の食品ロス削減への意識が醸成され、家庭での取組が促進されること、また食品ロス削減への意識や積極的な取組が長期的なものとなることを期待する。

最後に、本調査を実施するに当たり、絵本の作成や読み聞かせ等において、多大なる御協力をいただいた関係各位に感謝を申し上げる。

⁷ 消費者庁ウェブサイト：https://www.caa.go.jp/policies/future/project/project_008/booklet/

令和3年度絵本デジタルブック：<https://www.no-foodloss.caa.go.jp/digitalbook/03/#page=1>

令和4年度絵本デジタルブック：<https://www.no-foodloss.caa.go.jp/digitalbook/04/#page=1>

⁸ 消費者庁ウェブサイト：https://www.caa.go.jp/policies/future/project/project_008/inquiry/